



## 繰り返し伝えたい！ 今すぐできる声かけ3STEP

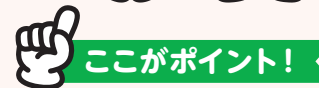
警視庁の統計によると、小学生を対象にした性暴力（強制的性交等・強制わいせつ）は年間およそ700件発生しています。（※1）

子どもたちの行動範囲が広がる夏休み。子どもを性暴力から守るために、包括的性教育の視点からはどのような声かけができるのでしょうか。企画1から引き続き、渡辺大輔先生に教えていただきました。

（※1）出典：警視庁生活安全局少年課「令和3年における少年非行、児童虐待及び子供の性被害の状況」



### 「あなたは権利をもっているよ！」



p.9でもお話ししたのですが、まずは、誰もが「自分の身体を大切にされる権利」「自分の身体に、誰がどのように触れるかを決める権利」をもっているんだよということを伝えます。

いきなり「〇〇してはいけません」といった「禁止」の指導から入るのではなく、子どもたちの権利の話からスタートし、それを守るためにはどうすればよいかを、子どもとともに考えることが大切です。



性暴力を防ぐための指導としてよくある「被害に遭わないために〇〇しましょう」という表現には注意が必要です。どんなに気をつけていても被害が避けられない場合はあって、そうしたときに、被害に遭った子どもが「自分が〇〇していなかったから…」と自分を責めてしまう恐れがあるからです。

「被害に遭わないために」ではなく、「あなたには大切にされる権利がある」としっかり伝えることが重要です。そして、何が「暴力」なのかを考えるとともに、「暴力はいけないことだ」と繰り返し伝えましょう。子どもたちの加害を防ぐだけでなく、暴力を受けたときに「これはいけないことだ」と子ども自身が気づけるようにするためです。



### 「あなたの権利は守られているかな？」



お母さんに  
ギュッと  
してもらえると  
安心するな

いきなり  
手を握られると  
友だちでも  
びっくりしちゃうな

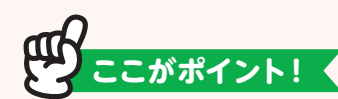
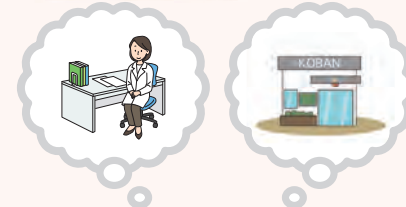


一人ひとりが権利を持っていることを伝えたら、次はそれがきちんと守られているかを子どもたちに問いかけてみます。

そして、どのようなときに大切にされている／されていないと感じるのかを考えてもらいましょう。具体的な場面を想像してみることが、自分たちの境界（バウンダリー）について認識したり、相手の権利を脅かさない適切な触れ合いについて考えたりすることにつながります。



### 「権利が守られていないときは、声を上げていいんだよ！」



STEP 1 で伝えた「自分の身体に、誰がどのように触れるかを決める権利」を守るため、友だち同士でも、家族や先生が相手でも、行動する前には同意をとってもらう権利があり、いやだと感じたときは「やめて」と言ってよいのだと話しましょう。

そして、権利が守られていないと感じたときは、それを他の人に相談する権利もあることを子どもたちに伝えます。仮に相手に「内緒だよ」と言われていたとしても、相談することは権利であり、相談したことで怒られたり責められたりすることはないことをきちんと話しましょう。



### 3STEP まとめ



「あなたは権利をもっているよ！」



「あなたの権利は守られているかな？」



「権利が守られていないときは、声を上げていいんだよ！」

これらの声かけは、夏休み前はもちろん、普段の生活の中で繰り返し伝えることが大切です。

子どもたちの安全と権利を守るため、ぜひ実践してみてくださいね！



### 包括的性教育についてもっと学びたい方はこちら！



国際セクシュアリティ  
教育ガイダンス【改訂版】  
——科学的根拠に基づいた  
アプローチ

編集：ユネスコ  
翻訳：浅井 春夫、良 香織、  
田代 美江子、福田 和子、  
渡辺 大輔  
発行：明石書店



マンガワークシートで学ぶ  
多様な性と生

著：渡辺 大輔  
発行：子どもの未来社